

な～に谷っ戸ん田 4年目の34回目 - じゃがいも収穫・大豆脱穀他 -

と き：平成 22 年 12 月 4 日(土) 9:30～17:00

ところ：堀の内の畑

天 気：晴れ

参加者：石田、オズ、加藤、久保、坂本、高橋、高田（裕司）、藤田「午前」、福井（・瑞季）
「午前」、松本（夫婦）「午前」、吉田 計 13 名(子供 1 名含む)

午前

・谷っ戸ん田の広場で朝礼中に、加藤先生より堀の内の大豆掛け干しポニーが前日の強風により全て倒壊しているとの一報が入り、全員で堀の内に急行。まずポニーの部材を片付け、大豆の束を地面に立てて暫し乾燥させる作業を行う。

・その後、同敷地内のじゃがいもの収穫作業を行う。（この間に石田リーダーと福井さんが大豆脱穀機(クボタ:ビーンスレッシャ・アンダープローMD40)をグリーンへ取りに行く。

・じゃがいも収穫作業を終え、脱穀機の到着までの間、昨年地下に貯蔵したままの里芋を掘り返そう（久保さん提案）と奮い立ちスコップを振るうも、収穫出来たものは、芋が茎にした、長い芋？が殆ど。

・脱穀機到着後はひたすら大豆脱穀に専念。（黒豆から始める）

【差入れ】お菓子(瑞季ちゃん)、吉田さん（群馬土産の Gateau Rusk）

お昼 各自用意

・大豆の脱穀作業に時間がかかることから谷っ戸ん田には移動せず、堀の内の畑で昼食。
オズさんのスペイン話を中心に歓談。

オズさんからスペイン土産（ひまわりの種のはちみつ揚げ）

午後

・引き続き、大豆の脱穀

大豆を結わえたひもをのこぎり鎌で切る。根元を折る（機械に通した際にひっかからないようにするため）。機械に入れる（根元側から）の繰り返し。

ビーンスレッシャーがときどき止まった。大豆の茎が回転部分に絡まっていた。大豆が倒れたため、濡れていたことも影響していた模様

脱穀終了後、殻に大豆が残っていないかチェック。そしてブルーシートに落ちている豆類とともに再度脱穀

・終了後、石田、オズ、久保、高田、高橋、吉田、にて機械・道具を片づけ、てつさん小屋のビニールハウスに収穫物を入れる。（大豆は網に入れて、広げておく）

使用したもの

機械：大豆脱穀機（クボタ：ビーンスレッシャ・アンダープローMD40）

その他：スコップ、のこぎり鎌、み、袋、網、ビニールシートなど

本日の収穫 じゃがいも 40 kg、大豆 50 kg、さといも 10 kg（以上推測値）

記録：松本 純、高田裕司